

統計検定

Japan Statistical Society Certificate

4 級

2021 年 6 月 20 日

【注意事項】

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、28 ページあります。
- 3 試験時間は 60 分です。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁およびマークシートの汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 マークシートの A 面には次の項目があるので、それぞれの指示に従い記入あるいは確認しなさい。項目の内容に誤りがある場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

① 氏名

氏名を記入しなさい。

② 検定種別

受験する検定種別を確認しなさい。

③ 受験番号

受験番号を確認しなさい。

④ Web 合格発表

Web 合格発表について、希望の有無をマークしなさい。

- 6 解答は、マークシートの B 面の解答にマークしなさい。例えば、10 と表示のある問に対して ③ と解答する場合は、次の（例）のように解答番号 10 の解答の ③ にマークしなさい。

(例)	解答番号	解 答
	10	① ② <input checked="" type="radio"/> ③ <input type="radio"/> ④ ⑤

- 7 解答番号は、30 まであります。
- 8 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

問1 としきさんは過去の台風のデータを整理することを考えた。

[1] 次のA, B, Cのうちで、量的データの組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 1

- A 各台風の番号
- B 各年に発生した台風の数
- C 各台風の発生から消滅までの日数

- ① Aのみ
- ② AとBのみ
- ③ AとCのみ
- ④ BとCのみ
- ⑤ AとBとC

[2] 次のD, E, Fのうちで、質的データの組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 2

- D 上陸した台風の上陸場所の地名
- E 各年に上陸した台風の数
- F 上陸した台風の上陸時の中心気圧

- ① Dのみ
- ② DとEのみ
- ③ DとFのみ
- ④ EとFのみ
- ⑤ DとEとF

問2 次の度数分布表は、大阪市の24行政区における2018年度の新設住宅着工戸数（総戸数）を集計したものである。

(単位：区)

階級	度数
0戸以上 500戸未満	1
500戸以上 1,000戸未満	5
1,000戸以上 1,500戸未満	8
1,500戸以上 2,000戸未満	4
2,000戸以上 2,500戸未満	1
2,500戸以上 3,000戸未満	2
3,000戸以上 3,500戸未満	1
3,500戸以上 4,000戸未満	1
4,000戸以上 4,500戸未満	1
合計	24

資料：国土交通省「住宅着工統計（2018年度）」

[1] 次の文章は、上の度数分布表から読み取れることを記述したものである。文中の(a), (b)にあてはまる語句の組合せとして、下の①～④のうちから最も適切なものを一つ選べ。 3

- 中央値を含む階級は (a) である。
- 度数が最も大きい階級は (b) である。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ① (a) : 1,000戸以上 1,500戸未満 | ② (a) : 1,000戸以上 1,500戸未満 |
| (b) : 1,000戸以上 1,500戸未満 | (b) : 4,000戸以上 4,500戸未満 |
| ③ (a) : 2,000戸以上 2,500戸未満 | ④ (a) : 2,000戸以上 2,500戸未満 |
| (b) : 1,000戸以上 1,500戸未満 | (b) : 4,000戸以上 4,500戸未満 |

[2] 新設住宅着工戸数が2,000戸以上の区は全体の何%になるか。次の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 4

- ① 4 % ② 6 % ③ 15 % ④ 25 % ⑤ 55 %

問3 国勢調査に関する説明として、次の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 5

- ① 国勢調査は家族単位で行うので一時的に別居している人は調査対象ではない。
- ② 国勢調査は日本に常住している外国人も調査対象である。
- ③ 国勢調査は調査員が面接で行い、インターネットでは回答できない。
- ④ 国勢調査は5年に1回、和暦で5の倍数の年に行われる。
- ⑤ 国勢調査は全国民から正しく徴税するために行われている。

問4 次の表は、「将来つきたい職業」に関する調査結果について、男子小学生の回答結果の上位のものを学年別にまとめたものである。ただし、学年ごとに100人が回答している。

男子小学1年生（100人）

1位：警察官	9 %
1位：運転士	9 %
3位：プロサッカー選手	8 %
4位：YouTuberなどのネット配信者	7 %
5位：研究者（科学者・考古学者など）	5 %

男子小学2年生（100人）

1位：プロサッカー選手	7 %
2位：YouTuberなどのネット配信者	6 %
3位：プロ野球選手	5 %
3位：運転士	5 %
5位：大工さん・建築家	3 %

男子小学3年生（100人）

1位：プロサッカーチーム選手	4 %
1位：医師（歯科医師含む）	4 %
1位：運転士	4 %
1位：コック・板前（料理人）	4 %
1位：YouTuberなどのネット配信者	4 %

男子小学4年生（100人）

1位：プロ野球選手	6 %
2位：プロサッカー選手	5 %
2位：エンジニア・技術者	5 %
2位：YouTuberなどのネット配信者	5 %
5位：医師（歯科医師含む）	4 %

男子小学5年生（100人）

1位：プロ野球選手	8 %
2位：YouTuberなどのネット配信者	7 %
3位：プロサッカー選手	6 %
3位：会社員	6 %
5位：研究者（科学者・考古学者など）	5 %

男子小学6年生（100人）

1位：YouTuberなどのネット配信者	6 %
2位：会社員	5 %
3位：プロ野球選手	4 %
4位：プロサッカー選手	3 %
4位：警察官	3 %

資料：学研教育総合研究所「小学生白書Web版（2019年8月）」

[1] 上の 6 つの表から読み取れることとして、次の（ア）、（イ）、（ウ）の意見があった。表から読み取れる意見には○を、表から読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。

6

- (ア) 男子小学1年生で「警察官」になりたいと回答した児童の人数は9人である。
- (イ) 「YouTuberなどのネット配信者」になりたいと回答した児童の人数が最も多い学年は第6学年である。
- (ウ) 「プロサッカー選手」はどの学年でも3位以内に入っている。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
② (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ○
③ (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ×
④ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ×
⑤ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ○

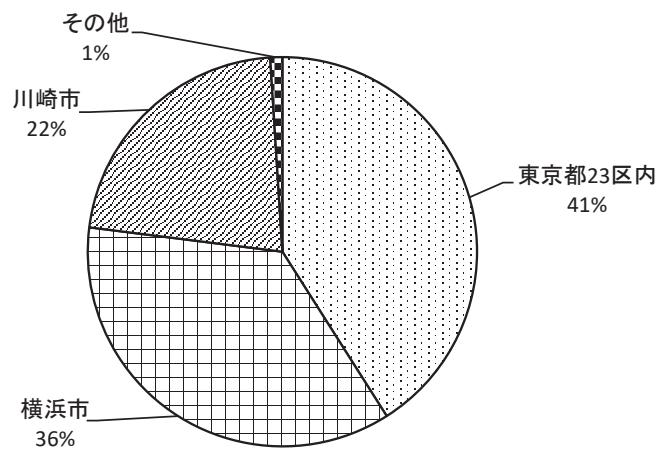
[2] Web でこの調査を見た A 小学校のあかりさんのグループが、女子と男子で「将来につきたい職業」にどのような違いがあるかに興味を持ち、自分たちの小学校でも調査してみることにした。「あなたが将来につきたいと思っている職業を教えてください。」以外の調査項目として、次の（エ）、（オ）、（カ）を考えた。学年ごとに女子と男子に分けて集計するために、調査項目として入れておく必要があるものには○を、必要がないものには×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。

7

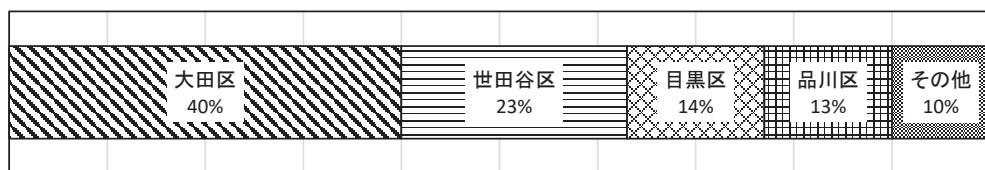
- (エ) あなたの特技を教えてください。
(オ) あなたの性別を教えてください。
(カ) あなたの学年を教えてください。

- ① (エ) : ○ (オ) : ○ (カ) : ○
② (エ) : ○ (オ) : ○ (カ) : ×
③ (エ) : × (オ) : ○ (カ) : ○
④ (エ) : × (オ) : ○ (カ) : ×
⑤ (エ) : × (オ) : × (カ) : ○

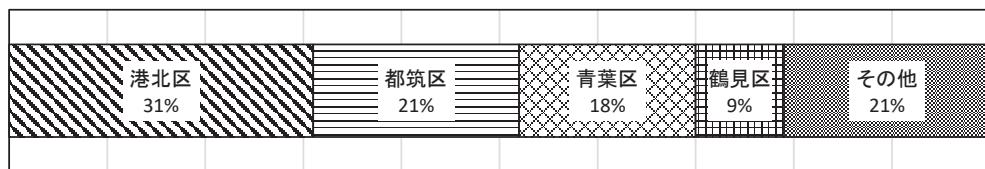
問5 次の円グラフは、ある学校の生徒1,228人の通学区域を調べた結果をまとめたものである。また、下の帯グラフは、東京都23区内、横浜市、川崎市について、区ごとにまとめたものである。



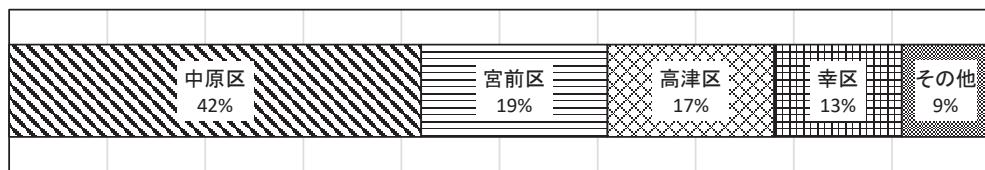
東京都23区内



横浜市



川崎市



- [1] 次の文中の (a) にあてはまる値として、下の ① ~ ⑤ のうちから最も適切なもの一つ選べ。 8

全校生徒に対する東京都大田区から通っている生徒の割合と東京都目黒区から通っている生徒の割合の差は約 (a) % である。

- ① 5 ② 11 ③ 26 ④ 54 ⑤ 74

- [2] 上のグラフから読み取ることとして、次の (ア), (イ), (ウ) の意見があった。グラフから読み取れる意見には○を、グラフから読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の ① ~ ⑤ のうちから最も適切なものを一つ選べ。 9

- (ア) 横浜市港北区から通っている生徒よりも川崎市中原区から通っている生徒の方が多い。
(イ) 東京都世田谷区から通っている生徒は、全校生徒の 10 % より少ない。
(ウ) 川崎市から通っている生徒の人数は 260 人以上である。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ○
② (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ×
③ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ○
④ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ×
⑤ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ×

問6 AさんとBさんは2016年の全国のそば・うどん店の事業所数を調べ、次のような議論を交わした。

Aさん 全国的にみても、香川県のそば・うどん店の事業所数が多そうだね。

Bさん でもこの資料をみると全国的にそば・うどん店の事業所数が多いのは東京都で、そのほかも、大阪府や福岡県など人口が多いところが多いよ。香川県はそこまで多くないみたい。

Aさん ということは人口が多いところは、人が多いから事業所数が多い。だから人口一千人当たりの事業所数で求めた方が、その都道府県の人口の多さに対する事業所数がわかるね。

- [1] 人口が a 人で、そば・うどん店の事業所数が b の都道府県における、人口一千人あたりのそば・うどん店の事業所数を求める式として、次の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 10

① $\frac{b}{a}$

② $\frac{1000b}{a}$

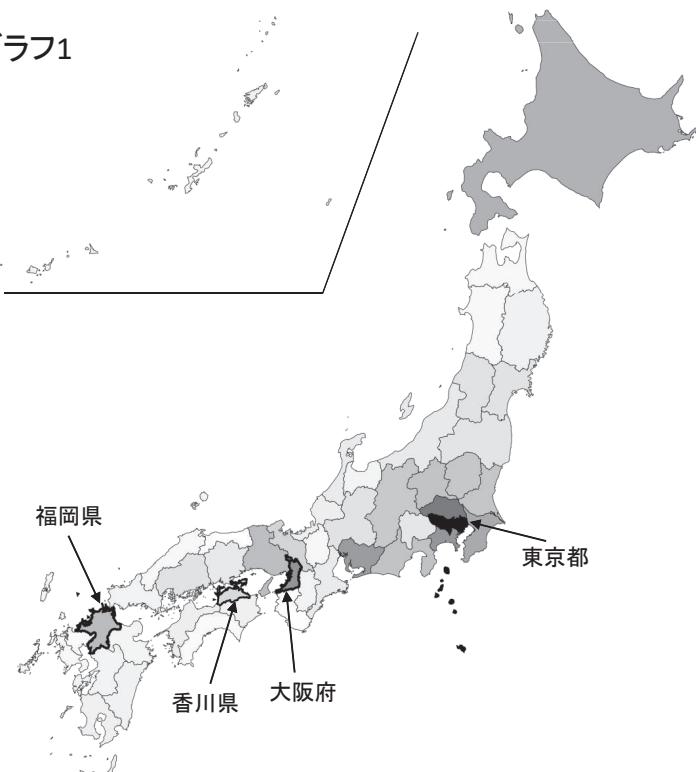
③ $\frac{b}{1000a}$

④ $\frac{a}{b}$

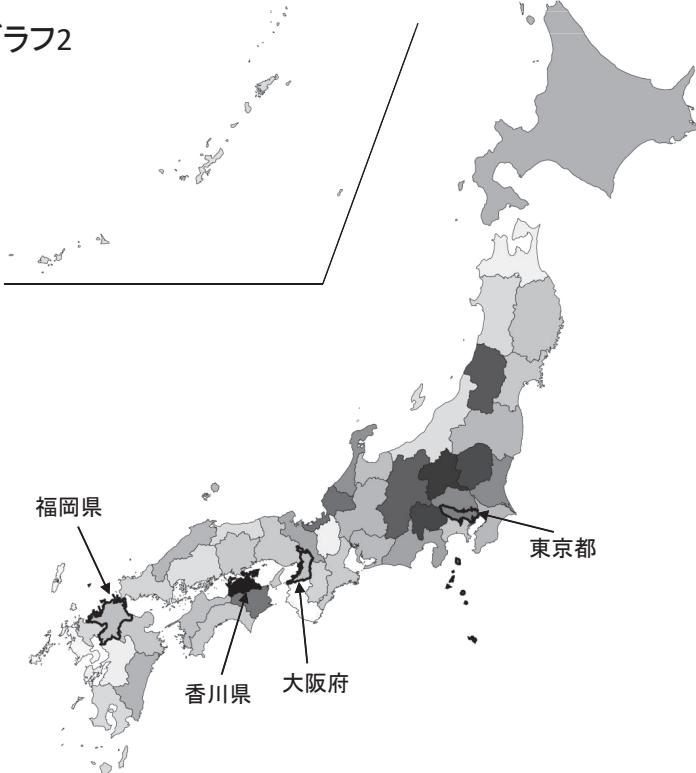
⑤ $\frac{1000a}{b}$

[2] 次の2つのグラフはそれぞれ、2016年の都道府県別そば・うどん店事業所数と人口一千人当たりの都道府県別そば・うどん店の事業所数のいずれかを日本地図上に表現したものである。この2つのグラフでは色が濃いほど値が大きいことを表している。

グラフ1



グラフ2



資料：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

グラフ1とグラフ2が表しているもの、および、そば・うどん店事業所数に関する説明として、次の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。

11

- ① グラフ1：都道府県別そば・うどん店事業所数

グラフ2：人口一千人当たりの都道府県別そば・うどん店の事業所数

説明：事業所数が多いのは東京都だが、人口一千人当たりの事業所数を求めるとき香川県をはじめいくつかの都道府県で多い。

- ② グラフ1：都道府県別そば・うどん店事業所数

グラフ2：人口一千人当たりの都道府県別そば・うどん店の事業所数

説明：事業所数は香川県をはじめいくつかの都道府県で多いが、人口一千人当たりの事業所数を求めるとき東京都が一番多い。

- ③ グラフ1：人口一千人当たりの都道府県別そば・うどん店の事業所数

グラフ2：都道府県別そば・うどん店事業所数

説明：事業所数が多いのは東京都だが、人口一千人当たりの事業所数を求めるとき香川県をはじめいくつかの都道府県で多い。

- ④ グラフ1：人口一千人当たりの都道府県別そば・うどん店の事業所数

グラフ2：都道府県別そば・うどん店事業所数

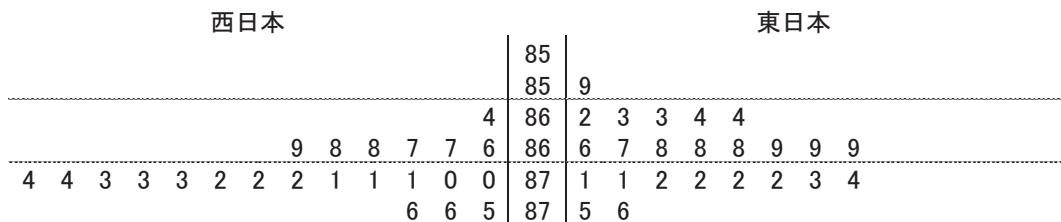
説明：事業所数は香川県をはじめいくつかの都道府県で多いが、人口一千人当たりの事業所数を求めるとき東京都が一番多い。

- ⑤ グラフ1：都道府県別そば・うどん店事業所数

グラフ2：人口一千人当たりの都道府県別そば・うどん店の事業所数

説明：事業所数が多いのは東京都だが、人口一千人当たりの事業所数を求めるときどの都道府県もほとんど同じで差がない。

問7 次の幹葉図は、2015年の「女の都道府県別平均寿命」の小数第2位以下を切り捨てた値を、気象庁の区分けを使って東日本と西日本に分けて表したものである。たとえば、86 | 2 は86.2年を表している。



資料：厚生労働省「平成27年都道府県別生命表」

[1] 東日本の平均寿命の中央値として、次の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 12

- ① 86.5年 ② 86.6年 ③ 86.7年 ④ 86.8年 ⑤ 86.9年

[2] 上の幹葉図から読み取れることとして、次の(ア)、(イ)、(ウ)の意見があつた。幹葉図から読み取れる意見には○を、幹葉図から読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 13

- (ア) 平均寿命の範囲は、東日本の方が西日本より大きい。
(イ) 平均寿命の最大値は、東日本の方が西日本より大きい。
(ウ) 平均寿命が87.2年以上の都道府県の割合は、東日本、西日本ともに
 $\frac{1}{3}$ 以上である。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ○
② (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
③ (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ○
④ (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ×
⑤ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ○

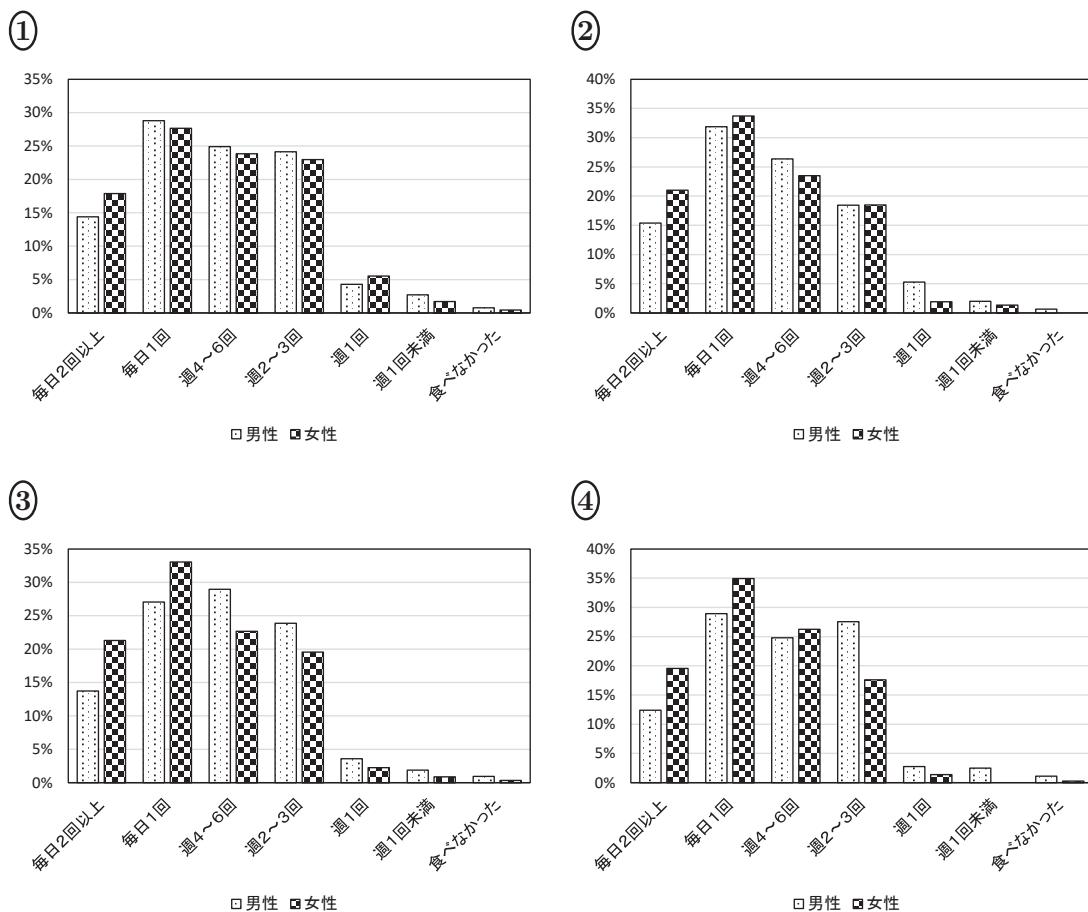
問8 次のクロス集計表は、2017年に行われた国民健康・栄養調査のうち、緑黄色野菜の摂取頻度の結果を性・年齢階級別にまとめたものである。

(単位：人)

		合計	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
男性	総数	3,057	257	363	532	455	618	832
	毎日2回以上	538	37	45	73	70	95	218
	毎日1回	961	74	105	144	145	216	277
	週4~6回	715	64	90	154	120	121	166
	週2~3回	621	62	100	127	84	127	121
	週1回	118	11	10	19	24	31	23
	週1回未満	67	7	9	10	9	16	16
女性	食べなかった	37	2	4	5	3	12	11
	総数	3,432	235	358	578	519	691	1,051
	毎日2回以上	875	42	70	123	109	183	348
	毎日1回	1,128	65	125	191	175	242	330
	週4~6回	758	56	94	131	122	150	205
	週2~3回	546	54	63	113	96	94	126
	週1回	80	13	5	13	10	12	27
	週1回未満	37	4	0	5	7	10	11
	食べなかった	8	1	1	2	0	0	4

資料：厚生労働省「平成29年国民健康・栄養調査」

[1] 20～29歳の各回答カテゴリーの回答割合（単位は%）を表したグラフとして、次の①～④のうちから最も適切なものを一つ選べ。 14



[2] 上のクロス集計表から読み取ることとして、次の（ア）、（イ）、（ウ）の意見があった。クロス集計表から読み取れる意見には○を、クロス集計表から読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 15

- (ア) 女性の回答者数は年齢階級順に減少することなく増加している。
- (イ) いずれの年齢階級も男性の方が女性よりも回答者が多い。
- (ウ) 女性全体で「毎日1回」と回答している割合は30%以上である。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
- ② (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ○
- ③ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ○
- ④ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ○
- ⑤ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ×

問9 次の表は、千早さんが競技用の小倉百人一首歌かるたの読み札のすべての句をひらがな表記して、一首あたり濁音（だくおん）を数えた結果である。なお、濁音とは、仮名に濁点（゛）を付けた「が、ぎ、ぐ、げ、ご、ざ、じ、ず、ぜ、ぞ、だ、ぢ、づ、で、ど、ば、び、ぶ、べ、ぼ」の20音である。

(単位：首)

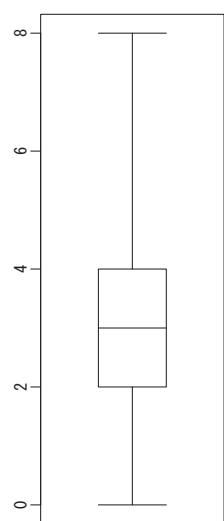
濁音数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
首数	1	15	23	22	23	10	4	1	1	100

- [1] 一首あたり濁音数の平均値として、次の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 16

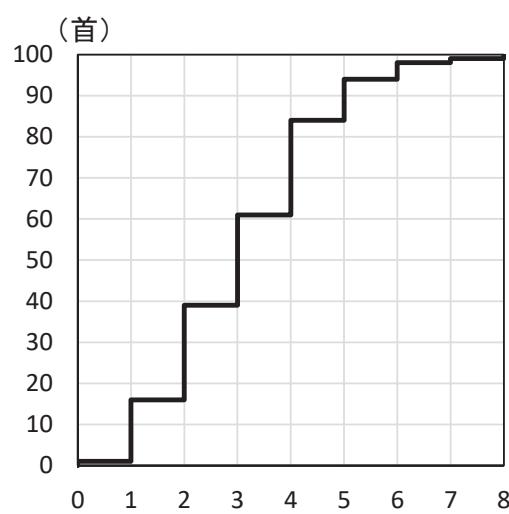
- ① 3.04 ② 3.05 ③ 3.06 ④ 3.07 ⑤ 3.08

- [2] 上の表から、次のA, B, Cのグラフを作成した。このA, B, Cのグラフのうち、中央値を読み取ることができるグラフの組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 17

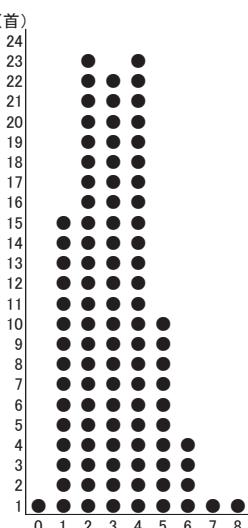
A : 箱ひげ図



B : 累積度数図



C : ドットプロット



- ① Aのみ ② AとBのみ ③ AとCのみ
 ④ BとCのみ ⑤ AとBとC

[3] 一首あたり濁音数の第1四分位数、中央値、最小値の組合せとして、次の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 18

- ① 第1四分位数：1.5 中央値：3 最小値：0
- ② 第1四分位数：1.5 中央値：4 最小値：1
- ③ 第1四分位数：2 中央値：3 最小値：0
- ④ 第1四分位数：2 中央値：3 最小値：1
- ⑤ 第1四分位数：2 中央値：4 最小値：1

問10 つぼAには赤玉が1個と白玉が3個入っていて、つぼBには赤玉が3個と白玉が1個入っている。1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいさいころを投げて、出た目が1, 2ならばつぼAから玉を1個取り出し、出た目が3, 4, 5, 6ならばつぼBから玉を1個取り出す。取り出された玉はすべて区別が付き、つぼA, つぼBともにどの玉を取り出すことも同様に確からしいものとする。

[1] 赤玉を取り出す場合の数と白玉を取り出す場合の数の組合せとして、次の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 19

- ① 赤玉：1通り 白玉：1通り ② 赤玉：4通り 白玉：4通り
③ 赤玉：10通り 白玉：14通り ④ 赤玉：12通り 白玉：12通り
⑤ 赤玉：14通り 白玉：10通り

[2] 白玉を取り出す確率はいくらか。次の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 20

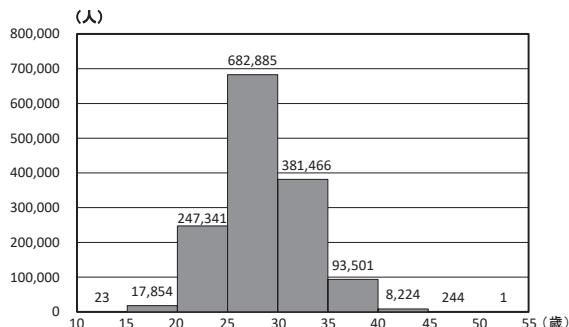
- ① $\frac{1}{24}$ ② $\frac{4}{24}$ ③ $\frac{10}{24}$ ④ $\frac{12}{24}$ ⑤ $\frac{14}{24}$

[3] 取り出された玉が白玉であったとき、その玉がつぼAから取り出された玉である確率はいくらか。次の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 21

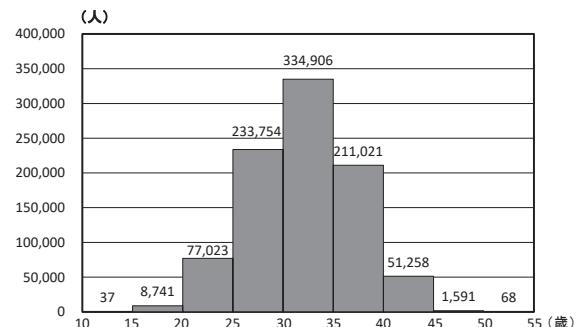
- ① $\frac{2}{10}$ ② $\frac{3}{10}$ ③ $\frac{4}{10}$ ④ $\frac{5}{10}$ ⑤ $\frac{6}{10}$

問11 次のヒストグラムは、昭和60年と平成30年における出産時の母の年齢別に、出生数をまとめたものである。ただし、ヒストグラムの階級はそれぞれ、10歳以上15歳未満、15歳以上20歳未満、…、50歳以上55歳未満のように区切られている。

昭和60年（1985年）



平成30年（2018年）



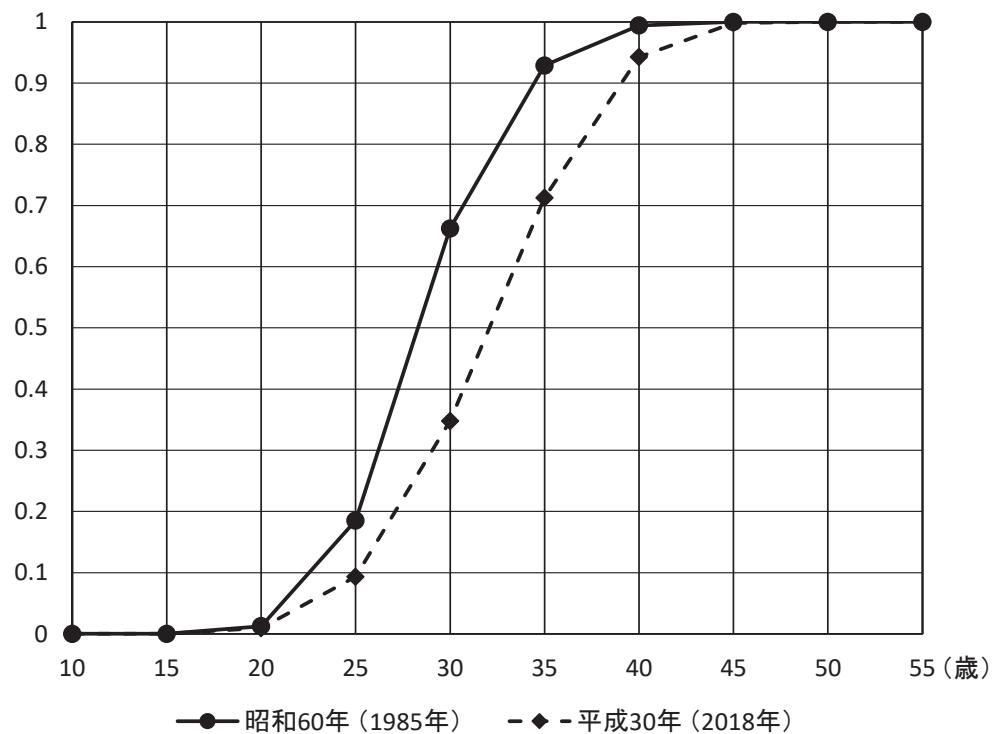
資料：厚生労働省「平成30年（2018）人口動態統計」

- [1] 上のヒストグラムから読み取れることとして、次の（ア）、（イ）、（ウ）の意見があった。出産時の母の年齢について、ヒストグラムから読み取れる意見には○を、ヒストグラムから読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 22

- (ア) 中央値は、昭和60年、平成30年ともに「30歳以上35歳未満」の階級に含まれている。
- (イ) 度数の最も大きい階級の階級値は、昭和60年よりも平成30年の方が10歳高い。
- (ウ) 階級値を用いて求めた平均値は、昭和60年よりも平成30年の方が高い。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
- ② (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ○
- ③ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ○
- ④ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ○
- ⑤ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ×

[2] 次の折れ線グラフは、[1] のヒストグラムをもとに、累積相対度数を折れ線で表したものである。

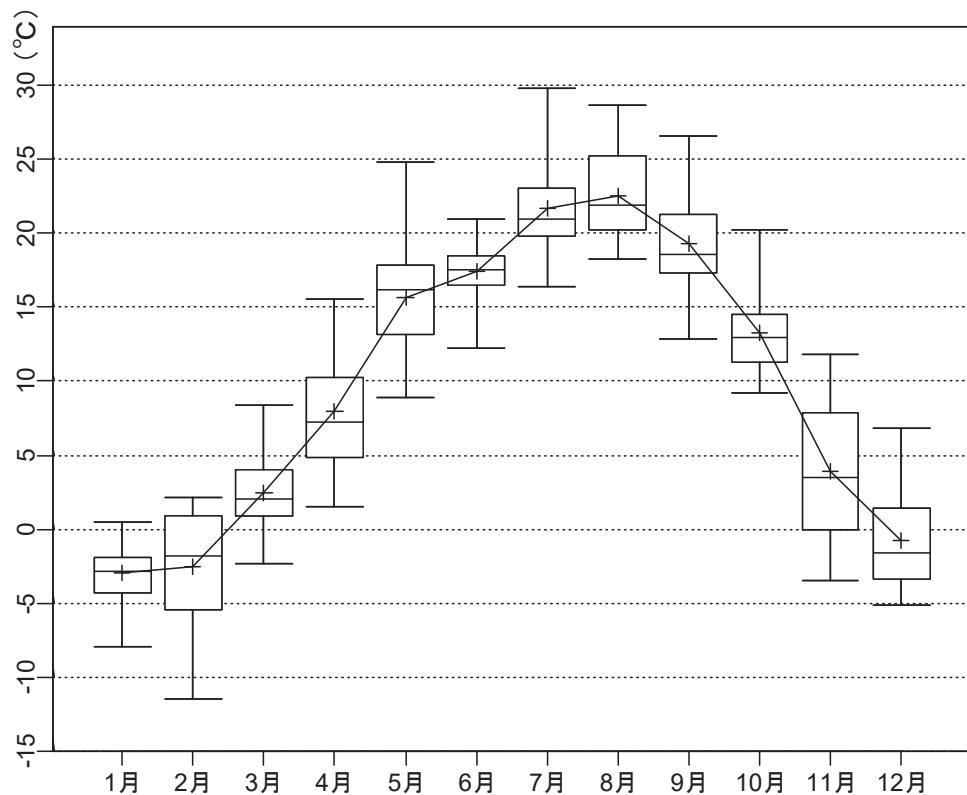


上の折れ線グラフから読み取ることとして、次の（エ）、（オ）、（カ）の意見があった。折れ線グラフから読み取れる意見には○を、折れ線グラフから読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。23

- (エ) 35歳以上の母による出生数の割合は、昭和60年よりも平成30年の方が大きい。
- (オ) 30歳以上35歳未満の母による出生数の割合は、昭和60年よりも平成30年の方が小さい。
- (カ) 25歳未満の母による出生数の割合は、昭和60年も平成30年も2割より小さい。

- ① (エ) : ○ (オ) : ○ (カ) : ○
② (エ) : ○ (オ) : × (カ) : ○
③ (エ) : ○ (オ) : × (カ) : ×
④ (エ) : × (オ) : ○ (カ) : ○
⑤ (エ) : × (オ) : ○ (カ) : ×

問12 次の箱ひげ図は、2019年の札幌における各月の日ごとの平均気温の分布を表したものである。また、各月の日ごとの平均気温の平均値を+で表し、平均値の折れ線グラフを附加したものである。



資料：気象庁「過去の気象データ検索」

[1] 四分位範囲が最も大きい月と範囲が最も大きい月の組合せとして、次の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。 24

- ① 四分位範囲：11月 範囲：5月
- ② 四分位範囲：11月 範囲：7月
- ③ 四分位範囲：5月 範囲：7月
- ④ 四分位範囲：5月 範囲：11月
- ⑤ 四分位範囲：7月 範囲：5月

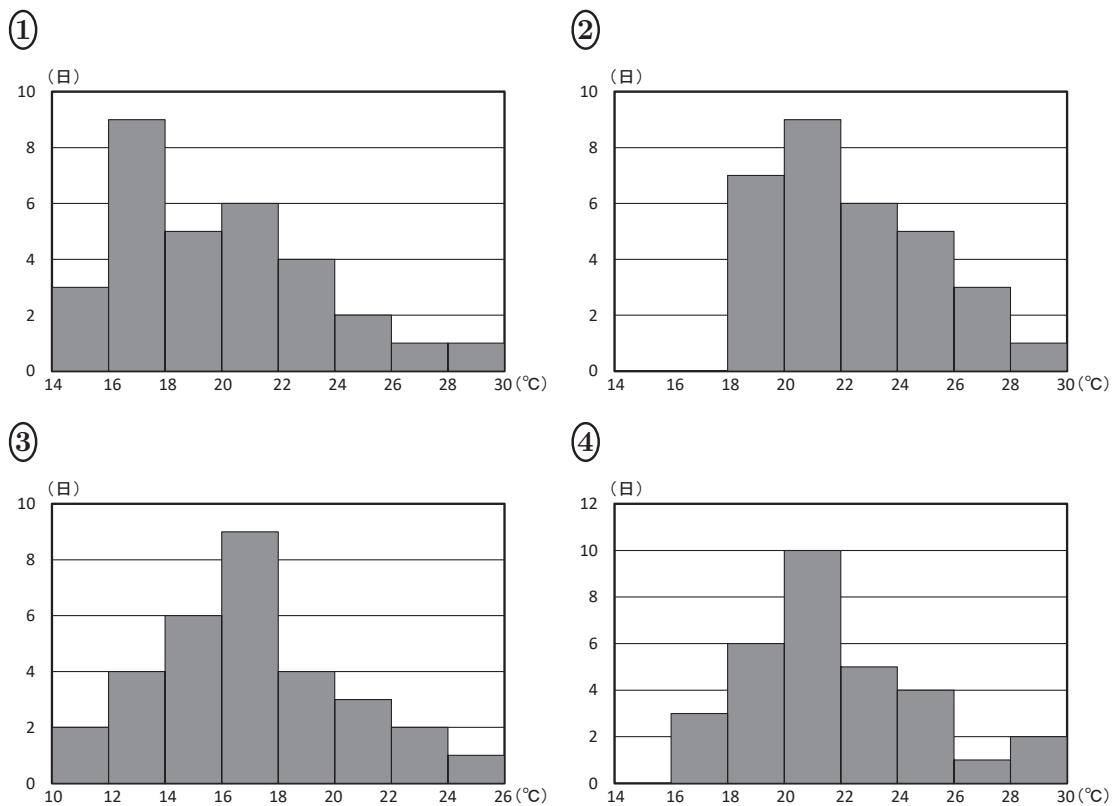
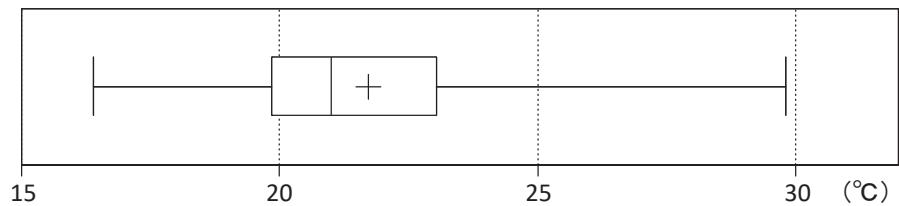
[2] 上のグラフから読み取れることとして、次の（ア）、（イ）、（ウ）の意見があつた。グラフから読み取れる意見には○を、グラフから読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。

25

- (ア) 1月から8月にかけて、平均値は上がり続けているが、第1四分位数や最小値はそうではない。
- (イ) 3月は、平均値は0°Cを上回っているが、0°Cを下回った日が10日以上ある。
- (ウ) どの月の平均値も、その月の第1四分位数と第3四分位数の間に入っている。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
- ② (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ○
- ③ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ○
- ④ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ○
- ⑤ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ×

[3] 次の箱ひげ図は、7月の箱ひげ図を拡大したものである。対応するヒストグラムとして、下の①～④のうちから最も適切なものを一つ選べ。 26

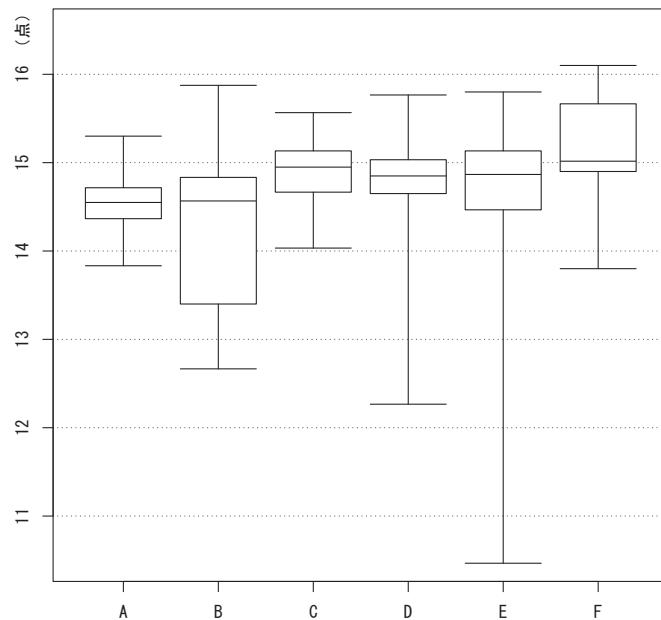


問13 体操競技・男子個人総合は、床運動・あん馬・つり輪・跳馬（ちょうば）・平行棒・鉄棒の6種目の合計点で争われる。リオデジャネイロオリンピックにおける種目ごとの得点傾向の違いを調べることにした。

[1] 男子個人総合の決勝において、途中棄権した2選手を除く22選手の種目ごとの得点を調べたところ、次のことがわかった。

1. 得点の中央値が最も大きい種目は平行棒、最も小さい種目はつり輪であった。
2. 跳馬は14点未満の選手がいなかった。
3. 範囲が最も大きい種目は鉄棒であった。
4. 四分位範囲が最も大きい種目はあん馬であった。

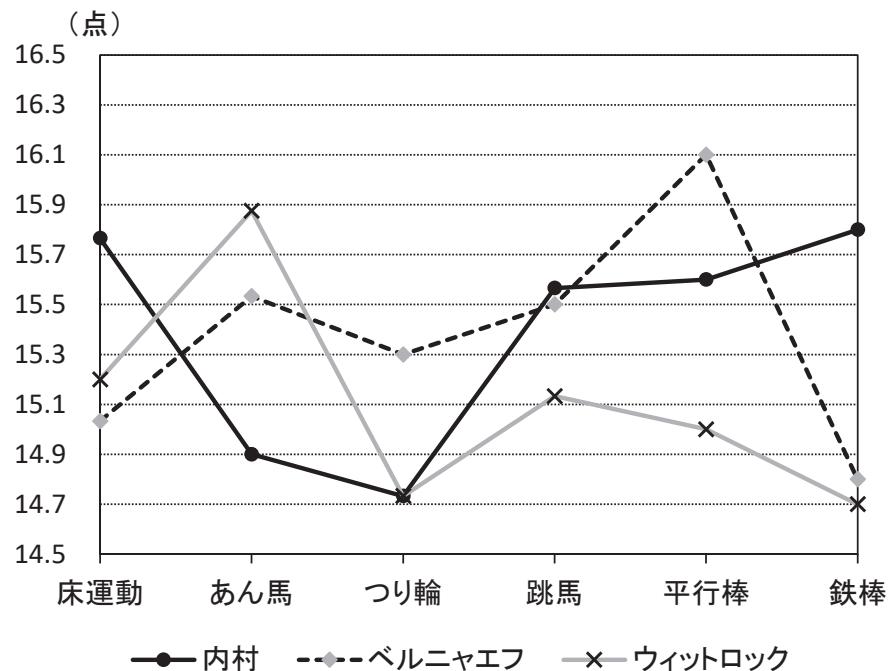
次の箱ひげ図は、種目ごとの得点を表したものである。図のA～Fはそれぞれ、6種目のどれかに対応している。このとき、記号と種目の組合せとして、下の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 27



資料：日本体操協会「第31回オリンピック競技大会（体操競技）男子個人総合
決勝結果」

- | | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① | A:あん馬 | B:鉄棒 | C:跳馬 | D:床運動 | E:つり輪 | F:平行棒 |
| ② | A:つり輪 | B:あん馬 | C:跳馬 | D:床運動 | E:鉄棒 | F:平行棒 |
| ③ | A:跳馬 | B:床運動 | C:つり輪 | D:あん馬 | E:鉄棒 | F:平行棒 |
| ④ | A:あん馬 | B:つり輪 | C:跳馬 | D:床運動 | E:平行棒 | F:鉄棒 |
| ⑤ | A:つり輪 | B:あん馬 | C:床運動 | D:跳馬 | E:平行棒 | F:鉄棒 |

[2] 次のグラフは、メダルを獲得した合計点上位3名（内村選手、ベルニヤエフ選手、ウィットロック選手）について、それぞれの種目での得点を記したものである。



このグラフと前ページの箱ひげ図から読み取れることとして、次の(ア),(イ),(ウ)の意見があった。このグラフと前ページの箱ひげ図から読み取れるものには○を、このグラフと前ページの箱ひげ図から読み取れないものには×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。

28

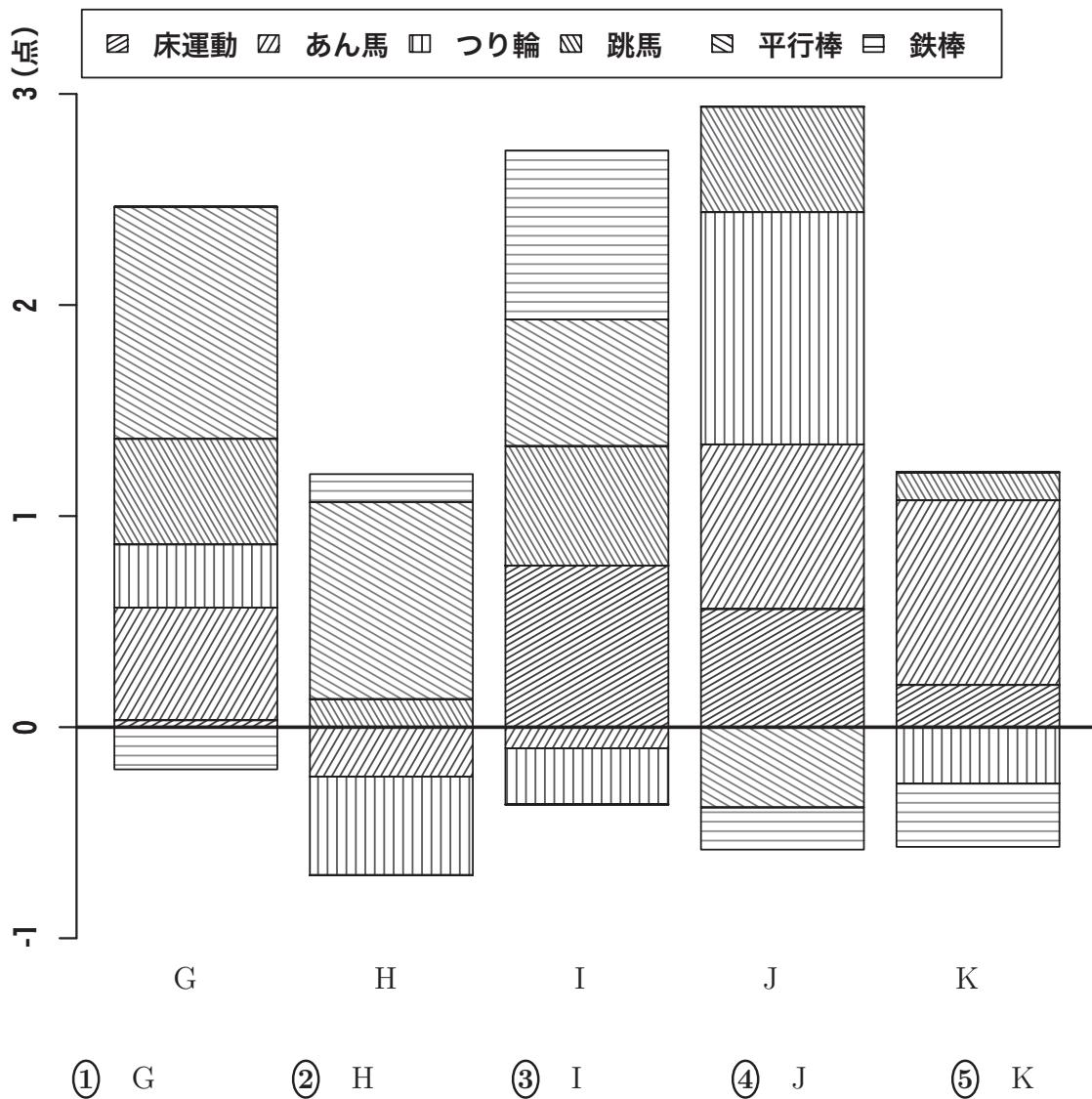
- (ア) 内村選手の方がベルニヤエフ選手よりも高得点だったのは3種目である。
- (イ) 床運動で、内村選手とウィットロック選手の間の得点をとった選手はない。
- (ウ) 内村選手よりもあん馬の得点が低い選手は、全22選手のうち半数以上である。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ○
- ② (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
- ③ (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ○
- ④ (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ×
- ⑤ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ○

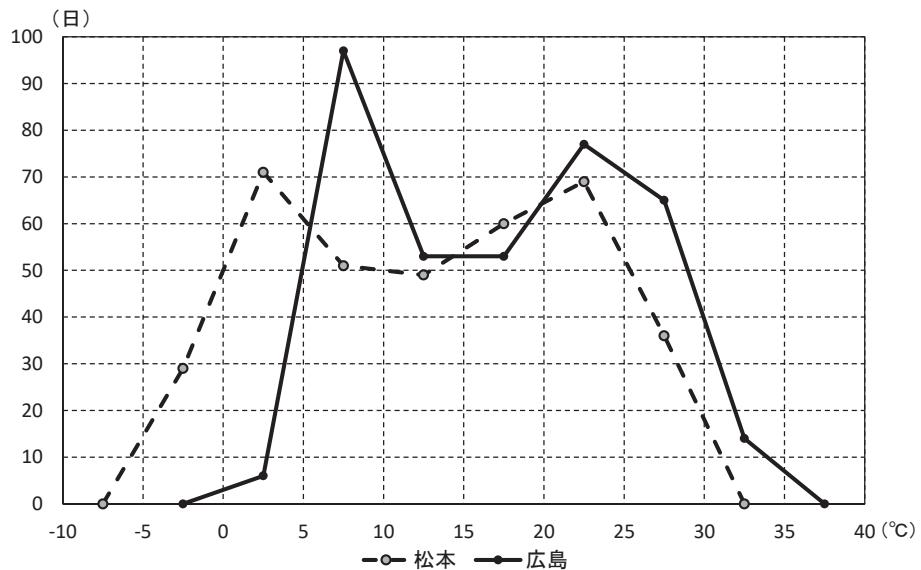
[3] メダルを獲得した合計点上位3選手の合計点はともに90点を超えており、そこで、1種目平均15点を超えているとみて、次のような方法で、下のような各選手の得点を表すグラフを作成した。

- 各選手のそれぞれの種目の得点から15を引いた値を求める。
- その値が正ならば上側に、負ならば下側に棒を積み重ねてグラフをかく。

このとき、内村選手の得点を表すグラフとして、下の①～⑤のうちから適切なものを一つ選べ。 **29**



問14 次の度数多角形は、2019年の1年間における松本と広島の日平均気温をまとめたものである。ただし、度数多角形の階級の幅は5°Cである。



資料：気象庁「過去の気象データ検索」

上のグラフから読み取れることとして、次の（ア）、（イ）、（ウ）の意見があった。グラフから読み取れる意見には○を、グラフから読み取れない意見には×をつけるとき、その組合せとして、下の①～⑤のうちから最も適切なものを一つ選べ。ここで、年間平均気温とは日平均気温の平均値のことである。 30

- (ア) 広島の日平均気温の最大値は37.5°Cである。
(イ) 5°C以上10°C未満の日数は広島の方がが多いから、広島の方が年間平均気温は低い。
(ウ) 分布の様子から、広島の方が年間平均気温は高い。

- ① (ア) : ○ (イ) : ○ (ウ) : ×
② (ア) : ○ (イ) : × (ウ) : ×
③ (ア) : × (イ) : ○ (ウ) : ×
④ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ○
⑤ (ア) : × (イ) : × (ウ) : ×

著作権法により、本冊子の無断での複製・転載等は禁止されています。

一般財団法人 統計質保証推進協会
統計検定センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3丁目6番
URL <http://www.toukei-kentei.jp>

2021.6